

一項の「構成團體間」に於ける融和と協力の緊密化に反するもの點はからずあつたのである。しかし乍ら全労連に東電の結成大會に於ける帝國主義戰爭絶対反対、ソビエトの粉砕の案を強ひて提案せんとする思想は（左翼的）意義に於ては、彼等の本質を暴露してゐる。我々に於ては（左翼的）言辭を用ふるも左翼と云ふ程のものではない。また實質的には協調社会ともいふべきものもあるといふ見識は付いてゐるといふべきである。餘り問題にせずして一種の苦笑を以て黙殺する程度で充分とも考へられるのであるが、一轉して日本の統一戦線の現状を見る時、この日本の労働組合運動の長さに互る分裂状態は、實にかゝる空虚なる左翼的言辭と非友誼的態度によつて乱れ果てたのである。それ故にかゝる卑劣なる行動こそが、我が國無産階級解放の統一戦線樹立の最悪の敵であると云ふことも出来るのである。

かゝる事情の下に造船聯盟は、その平素把持せる主張とその立場のために脱退の止むべきに至つたのである。だが我々としては造船聯盟が脱退する事なく相共に健全なる労働組合主義確立のために戦ふ事を望むたものである。けれども事情遂に訣別する

に至ればまた止むを得ないのである。しかし乍ら我々は造船聯盟の良情を諒解し、今後も交誼と協力はどこまでと保持し認むる方針である。

かゝる如くして造船聯盟は遂に脱退したのであるが、總聯合は特殊の事情發生せぬ限り脱退せぬ方針である。それは現在の労働組合會議は、必ずしも満足すべきものではない。然し乍ら現在の日本の労働組合の統一戦線の現状から見て、また過去の長きに亘る苦闘一戦線の実績から見て、これが發達を期しその障礙とその最悪の敵を粉砕することが我々に與へられる當面の任務と信ずるものである。

### 總聯合の國家主義に就いて

一つの項からか、總聯合は國家主義的の労働組合であるといふ、我々も別段に差支のない事だから反駁したこともない。しかし、ことさらに交對したこともない。しかしことさらに國家主義労働組合と名乗り出た訳ではないのである。然らば總聯合の國家に對する考へはドンナのであるか、それを示せば次の如くである。而してそれが國家主義であれば國家主義と名乗つても少しも差支へはないのである。